

ママとベッドの上で裸になって体力づくり ～3週間後に控えたマラソン大会のために～

僕の名前はユウスケ。

2週間後に学校で行われる**マラソン大会**を控えている。

だけど少し貧弱気味の僕は、元気なクラスメイトたちについて行けるか不安たっぷりだった。

過去の大会でも良い思い出はない。

だから今から1週間前に僕はママに相談してみたんだ。

すると、ママは笑顔で言ってくれた。

「ユウスケちゃん、じゃあママの**カラダ**で体力づくりしてみるっ??」

大賛成の僕は、早速その夜からママとベッドの上で裸になって体力づくりをすることにした。

「んふあああっ！！もっと吸いついてえっ！！息を止めてママのこのおっぱいに吸いついてもっと**肺活量を鍛えるのよおっ！！**」

パジャマを脱ぎ捨て**布林ッ！！**とこぼれ落ちたママの**大きなおっぱい**に生まれて間もない赤ちゃんのようにしゃぶりつく僕。

おっぱいを見たのなんておそらくそれこそ乳幼児の頃以来ない。
まだガールフレンドだっていない僕だからっ！！

「んぱあっ！！んちゅぱっ！！ムポポポッッ・・・チュロルロッ・・・」

僕は夢中になっちゃって、ヘンテコなことにおちんちんが**小さなウインナー**みたいに垂れ下がっていたはずなのに、まるでキノコがビデオの超高速の早送りで大きくなっていくみたいに、ムクムクムクッ！！と立ち上がり、**フランクフルト**みたいに膨れ上がった。

「んはああっ！！ユウスケちゃんっ！まだお毛々も生えてないおちんちんなのに立派に大きくなっちゃったのねっ！！」

ピーンッッと不思議なくらいに大きく変貌して反り返っているおちんちん。

そんな僕のおちんちんを見て、**過去に前例のない**くらい優しく嬉しそうに表情を浮かべ、ママはそこに顔を近づけた・・・。

“パクッ！！”

“ああっえええっ！！？”

何が何だか分からない僕。

「ちよっ・・・ちよつとママ！！こ、これって・・・た、体力づくりじゃ・・・」

ママの顔はとろけそうな表情に変わっていた。

「チュルルルロツ・・・これはねユウスケちゃん・・・チュボボボボツ・・・
ママにとっても**体力づくり**なのよ！ユウスケちゃんのおちんちん
を・・・チュボボボボボボツ！！こうやって頬張って・・・チュブボ
ボオオツ！！ママも**精**をつけるのっ！！」

「僕のおちんちんで**精！？**んはあああああつ！！・・・か、活力が生ま
れるってこと・・・？？あああああつ！！」

「そういうことよ！チュブボボボボツ・・・これからも・・・んはあ・・・
ユウスケちゃん・・・チュブボオオツ・・・**毎晩っ！！おっぱいもお**
ちんちんも舐め合って！チュレロレロツ・・・たっぷり体力づ
くりしましよおねっ！！・・・チュブブツツ」

ママは少し開き気味にして投げ出した僕の脚に跨り、おちんちんをしゃぶ
りながら顔を上げてこっちを向き、目尻を下げて柔和な笑顔を浮かべた。

体験版はここまでです。

もし内容を気に入っていただけましたら、

続きを製品版でお楽しみいただけますと光栄です。